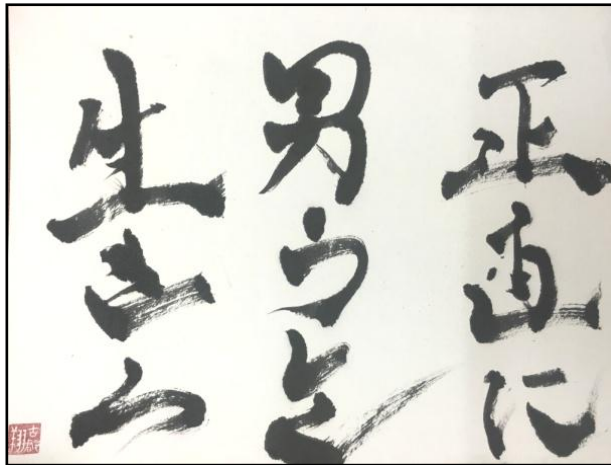
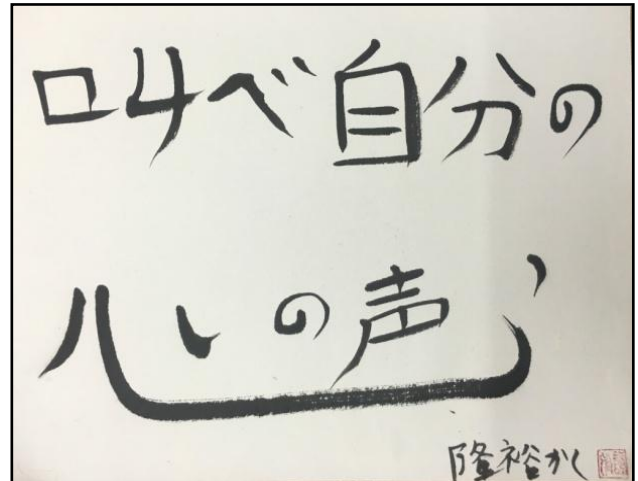


誌上ギャラリー

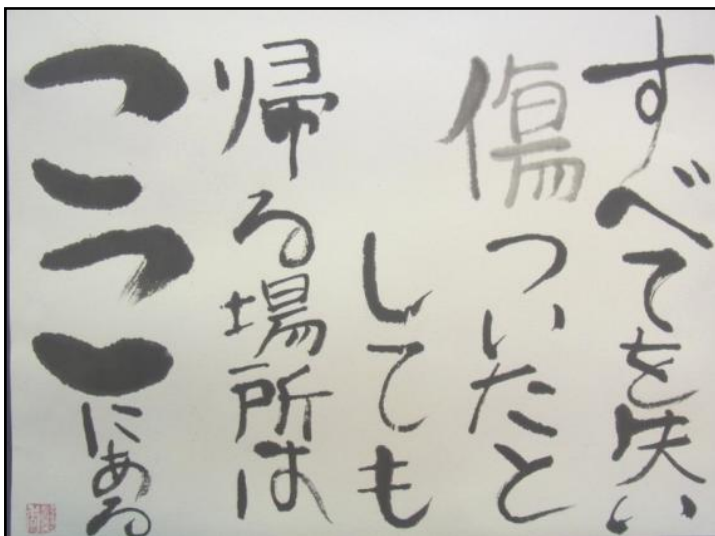
伊勢崎商業高校書道授業作品



S君「自分」
嘘をついたり騙したりするのは違うと思った。男なら正直にぶつかりたい。

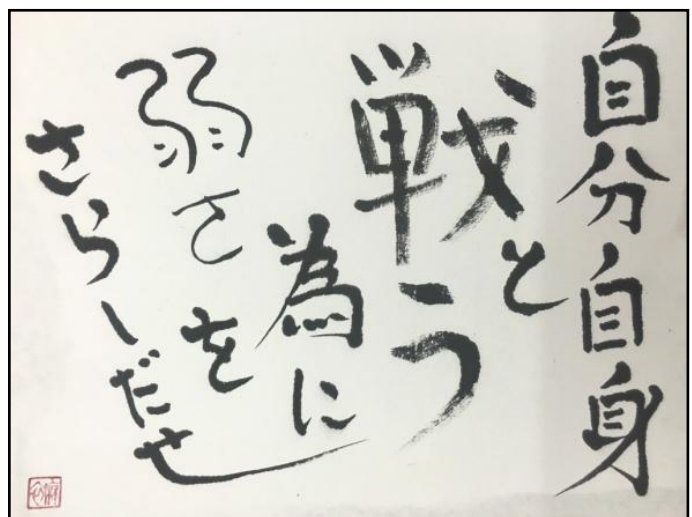


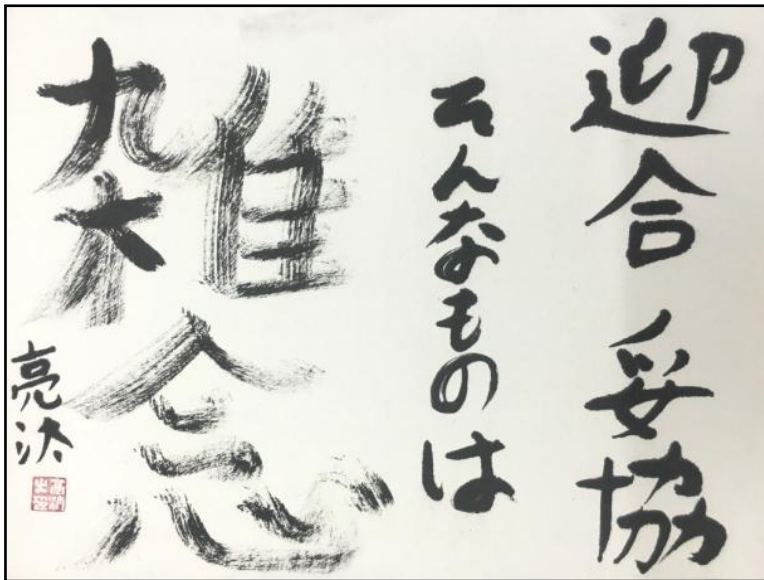
T君「心」
心に閉まってある声を言葉にしないと
いけないと思いました。心の中にある声
を表しました。



Eさん「家族」
すぐにこの言葉が浮かんだ。傷
は薄く弱っているのを表現した。
“ここ”は家族のことで一番目立
つように太く書いた。

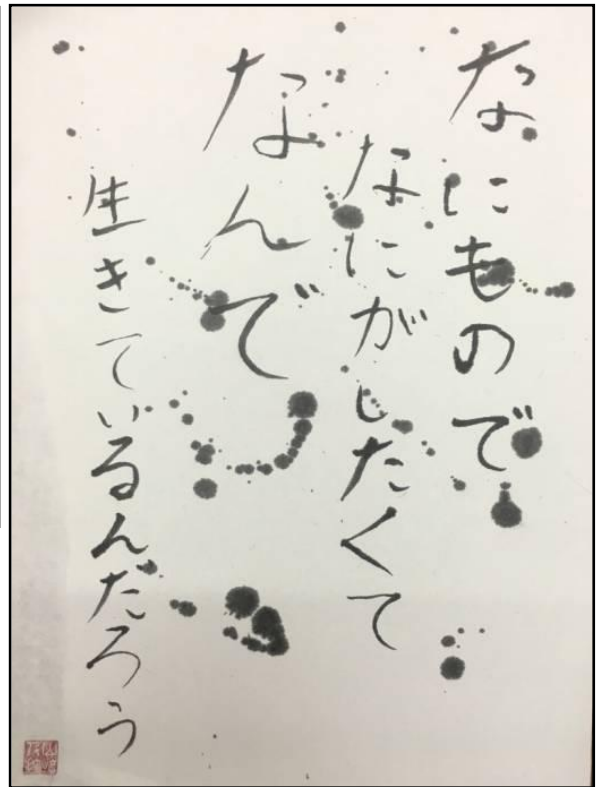
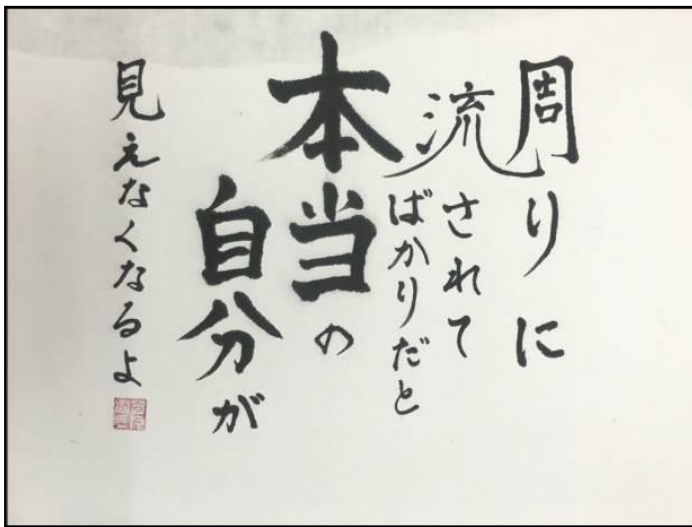
Mさん「部活」
敵は自分という言葉が強く頭に
残っていて、そのためには苦手なこ
とや自分の弱い気持ちをさらし出
さないといけないと思った。





R君「夢」
 人と同じということに安心してはいけない。雑念は迷いから生まれる。目標を明確にして突き進むのみ。

T君「自分」
 自分ってなんだろうと思った。考えたけど、答えは出なかったから、このもやもやした気持ちをそのまま書こうとおもった。



Jさん「川」
 川は流れるから連想しました。言葉の通り周りに流されずにいたいと思いました。“流”を川のように書きました。本当の自分を強調させました。

指導者：吉村紗貴

様々な事件や災害が起こるこの社会で、多感な高校生活を送る生徒たちは、思っていることを言葉にしたり、感情を込めて表現するということが悲観的になっているのが現状である。そうした生徒たちの感性を伸ばすべく、創作に取り組むことは重要な学習活動と位置づけられる。この創作の授業では詩文作品と題し、自らで文章をつくり試行錯誤しながら作品制作に取り組んだ。ここに彼らの“今”を表すことができたのではないだろうか。

(作品は全て生徒が高校3年生時に行った授業の中でのものである)